

にいがた  
**勤務医ニュース**

発行所  
新潟県医師会  
新潟市中央区医学町通 2-13  
TEL 025 (223) 6381

## 医学部卒業という青空

新潟県医師会 理事 上村 朝輝



皆さん医学部卒業おめでとうございます。他の学部と異なり医学部の六年間の修学は厳しいものだったと思います。本誌が発行される頃にはすでに国家試験も終わって臨床研修への思いを馳せていることでしょう。新潟特有の暗い冬空の下でも青空を感じているのではないのでしょうか。私が卒業したのは昭和四十二年で随分古い話になりますが、インターンという感慨は今でも強く記憶に

# 卒業おめでとう



新潟大学大学院医学総合研究科  
生体機能調節医学専攻内環境  
境医学講座(第二内科) 教授

## 『初心』を大切に 卒業生に贈るメッセージ

成田 一衛

よく言われることですが、卒業というものは同時に新たなスタートでもあります。皆さんと私は、昨日までは教わるものと教えるものという関係でしたが、今後は同じ医療・医学の分野で働く仲間になるということ、同じ最終目標を持つ、すなわち病(やまい)を癒すことを目指す同志として皆さんの活躍に期待し、心から歓迎致します。皆さんは、医学部生時代には医学の勉強の他にも部活動やサークル、あるいは社会との関わりをもって、学生として様々な活躍をされてき

たものと思いがすが、医師あるいは医学者としては、今スタートラインに立つには、全くの白紙の状態です。是非、社会人としての自覚を持って、今まで勉強してきた『理論』を、一つ一つ現場で実践しながら身につけて、医師・医学者として着実に成長していかって下さい。皆さんの今後の努力と、若干の運さえあれば、重要な発見や新しい治療法の開発を通して医学の発展に貢献したり、あるいは病気に悩む多くの人々の力になることができます。間違いない、皆さんの活躍を待つ舞台は、非常に広い分野にわたって拡がっており、また活躍の形にも多様な形があるのです。おそらく胸中には御自分の将

は異なる職種とのチームの中で力を付けていくわけですから、皆さんが部活で活躍したときと同じようにとらえていただければよいと思います。現代社会が医療に求める内容は今から二十〜三十年前に比べて桁違いに大きくなっています。そのような状況の中でとくに勤務医は大変な業務量をこなさざるを得ず近年では若くして診療所開設の道を選択する方も多くみられます。一方、部活と一緒にできないまでもチームで行なっていく医療には喜びもまた少なくありません。元気に退院していく患者さんや家族の喜びを自らも分かち合える機会も多く、また静かに死を看取ることも一つの使命です。このように医師としての役割は多様ですが社会への貢献度は大きいことは言うまでもありません。医師になつたときの皆さんの喜びの中に必ず湧き出ているであろう医師としての使命感を、日本のそして新潟県の医療に役立ててほしいと心から願いました。それを信じておられます。どうぞ皆さん私達と一緒に頑張って重篤な状態にある病院医療の治療に当たってみませんか。お待ちしています。

来像、もしくは希望・夢があると思いがすが、卒業を前にした皆さんの今の新鮮な気持ち、つまりそれぞれの『初心』というものを、今しっかりと確認して下さい。なぜ医師(あるいは医学者)を志したのか、ということを意識して下さい。それは、一つではなく、まさに多様なものがあつて当然と思いがすが、その実現に向けて一歩一歩進んでいって下さい。一方、当面は二年間の臨床研修が始まりますが、そこで医療の現場を身をもって体験し、自分の目標とするものが新たに見つかることもあると思いがすが、それも大切にして頂きたいと思いがすが、知識・判断力も含めた医療技術や研究手法の高度化と専門化は、急速に進んでおり、それに追いつきリードすることは並大

抵のことではありません。また現在の医療界を取り巻く環境においては、経済的な面でも人的な面でも、医療資源の不足が顕在化するなかで、安全かつ高度な医療が求められており、明るい状況ばかりではありません。しかし何よりも大切なことは、自らの心と身の健康であり、それが私達の活動の必須条件です。患者を大切にすることが、自らの限界や新しいことに挑戦する意欲、つまり『心』が、医療や医学の進歩には重要なことです。困難に直面したときでも、その『心』さえ見失わずに持ち続けることができれば、少なくとも目標に近づくことはできるはずで、私自身も新任の教授

として、この与えられた立場で医療・医学の発展と次代を担う医療人の育成に微力を尽くしたいという『初心』を忘れずに、歩んでいきたいと思っています。新潟大学医学部は今年、創立一〇〇周年を迎えます。偉大な先達たちによるこの医学部の歴史と伝統を引き継ぎ、次の一〇〇年の新たな歴史を築いていくのは、私たちの使命です。皆様の活躍そのものが、この医学部の歴史にもなつていきます。私自身もまだまだ未熟ではありますが、初心を忘れずに、皆さんとともに成長し、次代の医療と医学の発展に貢献していかうことを目指すよう、念願しております。

## 卒業おめでとうに「いざよひ」を贈ります

労働者健康福祉機構  
燕労災病院 院長 宮下 薫



ご卒業おめでとうございます。『よーしっ！』とこれからの医師としての仕事(医療の実践・医学研究)にと、意欲を燃やしていることでしょう。私が新潟大学を卒業した三十三年前はどのようなものであつたかを振り返りても、ようやく卒業試験が終わって卒業できることが決まっても、次の国家試験に向けて準備に入り、ただ慌しかったような記憶しか残っていません。私自身はすぐに外科に所属しましたので第二外科、第一外科で四ヶ月研修後一般病院へ研修に出ました。以後、大学と関連病院を行き来し平成元年に東京都立駒込病院に勤務し、その後平成五年に現燕労災病院に赴任しています。ずっと臨床の現場、外科です。手術を中心にして患者さんと接してきました。学生時代、全学の

すめ」と題して寄稿したことがありました。つまりは外に飛び出せ！、国内はもちろん外国も含めていろいろな人と出会い、いろいろな経験をしてこいという事です。当院も医師不足が大変困つていますが超医師不足の新潟県において、そのようなことを言いますと先輩諸氏から御叱りを頂くのは重々承知してはいますが、基本的には今でも同じ思いです。更に付け加えるならば、力をつけ新潟県に戻り医療に貢献して頂きたいということですが、つたない私の経験からでも新潟県の医療レベルは総じて高く、新潟以外の出身者が東京を中心とした都市部で研修すると多少偏つてしまうため、私のところで何年間勤務してその後その先生の地元へ戻った方もおります。

さて、『花鏡』に「初心忘るべからず」の言葉を残した世阿弥元清、「風姿花伝」の「年来稽古条々」の中で「三十四五歳の頃の能、盛りの極めなり。ここにて、この条々を究め悟りて、堪能になれば、定めて天下に許され、名望を得べし。……もし、この時分に……名望も思ふ程なくば、いかなる上手なりとも、いまだ真の花を究めぬ仕手と知るべし。もし究めずば、四十より能は下るべし。これ後の証拠なるべし。さる程に、上るは三十四五までの頃、下るは四十以来なり。」という一文があります。勿論、これは能楽を極めてゆくための教えを説いているものですが、能楽に限らず医学、さらに広く一般のことにも言えることのように思っています。若い諸氏にはこれからいろいろな意味で多忙な毎日が続いていくかと思いがすが、これからの十年が非常に大事な時です。上達する過程においてその時々には初心がありその初心を忘れず、急峻な山道を歯を喰いしばつて登り、そして樹木の背が低くなつてきた中腹で振り返ると眼下に広がる素晴らしい景色を見るが如く、すがすがしい気持ちでその時を迎えられんことを祈つております。

# 卒業おめでとうございます

新潟県立がんセンター  
新潟病院 外科 丸山 聡  
(平成六年卒)



「元氣な中堅外科医か、医師として旅立つ若人へのメッセージ」との原稿依頼を受けましたので、自身の初心を思い出しつつ執筆したいと思っております。

私の卒業当時は現在のような初期研修制度はなく、卒業後すぐに新潟大学外科学教室に入局しました。外科を選んだ理由としては、手術が面白そうだった、全身管理ができる医者になりたかった、救急医療に強くなりたかった、頭には自信がなかった、なにより外科医はカッコいいと思っていたからでした。しかしながら、これらの

# 初期研修のスタートによせて

新潟市民病院 内分泌代謝科 佐藤 さつき  
(平成十五年卒)

みなさんご卒業おめでとうございませう。

国家試験を無事終えられ、四月からは医師としての生活をスタートされます。これから始まる新しい生活に期待と不安が半分半分といったところでしょうか。

私は以前の臨床研修制度での初期研修を行いました。研修医時代に経験してきたことは自分の医師としての基盤になっているように思います。

当初は「先生」とよばれるのが何となく気恥ずかしく、真新しい白衣はまさに研修医一年生といった感じでしたが、日々に新しい課題が積み上げられていき、一つ一つを乗り越えながら進んでいくうちに記憶しています。

そんな生活のスタートに際して一番最初に先輩にいわれた言葉があります。

「研修医は一人では何もできないから患者さんの話をちゃんと聞いてから仕事！」

確かに最初は一人では何もできませんでしたが、一人の患者さんとの会話を費やした時間は研修医時代の一番多かったように思います。ささいなことであっても会話の積み重ねの中から信頼関係がう

# 医師になる皆さんへ

厚生連長岡中央総合病院 矢田 祐子  
(平成二十年卒)



門医ではなく、患者さん全体を診て治してくれる医者であることに変わりはありません。実際には一人ですべて治療することは不可能ですので、優秀な家庭医といったほうが近いのかもかもしれませんが、私が当時憧れた外科医はメスが切れる一方で、そういった側面も強く持ち合わせていたのだと思えます。

私自身は昨年より県立がんセンター新潟病院に赴任し、大腸癌を専門として診療しています。当初思い描いていた外科医のイメージとは多少異なりますが、大腸癌だけを診るのではなく、患者さんを診る姿勢を忘れずに診療を続けていきたいと思っています。

本日はそんな元気がない中堅外科医の自分への戒めを、皆さんへのエールとさせていただきます。いつか皆さんと一緒に元気に働けることを楽しみにしています。頑張ってください。

# ご卒業おめでとうございます

済生会新潟第二病院 鈴木 美保  
(平成二十年卒)



卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

六年間一緒に過ごした友達と別れる寂しさ、これから始まる研修への期待、不安などを抱えたまま新生活を始められること、研修医としての生活が変更されているので参考になるのかわかりませんが、初期研修をもうすぐ終える立場から書こうと思います。

研修が始まった当初は、指示の出し方から薬の名前まで、何もかもが分からず、先生や研修医の先輩に聞き回る毎日でした。初めての二ヶ月はあっという間で、やっと慣れた頃に次の科へ移動し、また初心者として新たな人間関係を築く必要がありました。それにも関わらず、任される担当患者さんの病状について、毎日のノルマをこなすのに必死になっていました。徐々に慣れてきた二年目でも、各科の到達目標が十分身に付かず、その科が終了し、焦る思いがすることもありました。

しかし、身近な人と話すと、他の研修医も同じ様な感想を持っていました。研修する地域や施設によって内容は大きく違って、悩んでいる内容は大抵同じで、悩んでいても解決するようになり、気になった患者さんには科が変わっても会いに行き、その時の治療方針等を先生や次に回っている研修医に教えるのもうと勉強になると思いました。また、振り返ってみると、必死に勉強したことは意外と印象に残っています。研修したからといって一般的な疾患に対する初期対応が全てできるようになるとは思いませんが、特に救急外来で、実際の対応方法については、以前経験した疾患については、研修のありがたみを実感します。その疾患を専門にされている先生の対応と患者さんの変化を実際に見ることが、各病棟に質問しやすい職員の方々がいらして、いろいろなことが非常に強みになります。

徐々に病棟での居心地が良くなるにつれて研修が面白くなると思えます。まずは卒業旅行等の疲れをとって、研修をスタートして下さい。健康をお祈りしています。

# 卒業生へ

新潟臨港病院 富永 顕太郎  
(平成二十一年卒)



みなさん、ご卒業おめでとうございます。

立ちを始める皆さんにメッセージを」とのお題をいただきました。経験が浅いながら臨床研修で感じたことを少し書かせていただきます。

私たち研修医に求められること、はなんだろうか。オーベンに言わせれば、「コペン(研修医の別称、隠語)は、責任能力をまるで持たない戦闘員のようなもの。危険極まりない、目の離せない存在」です。そんな研修医にまず求められるのは、「プレゼンテーション能力を身につけること」だそうなんです。

プレゼンテーション能力、要するに患者さんのことを要約して相手に伝える技術。これは研修医が身につけなければならない大事な技術のひとつだと感じます。プレゼンは病棟カンファ、症例検討会、教授回診など頻繁に行われる行為です。プレゼンを中心に病棟業務が回転しているといつても過言ではありませぬ。プレゼンをするうえで大事なことはなんだろうか。それは根拠のない自信と勢いだそうです。もちろん要約内容も大事ですが、多少呂律が回らずとも堂々と勢いに任せてプレゼンすることが大事だそうなんです。

話は変わりますが、私はこれまでの研修期間で、内科と救急を回らせていただきました。研修を回しているとならばミスや失敗をして落ち込むことが多々あります。また、当直が忙しくて眠れず、「つらい、休みたい」と思うときもあります。そんなときに同感してくれる仲間が本当にありがたいです。失敗もみんな共有すれば

# ぜひ医師会にご入会を 医師会入会の手続きと会費

県医師会への入会は原則として、郡市医師会・都道府県医師会・日本医師会に加入していただくことになっております。入会手続きについては、日医が定めた入会申込書によって行っていただきます。

なお、会費は下記のとおりですが、詳細については県医師会にお問い合わせ下さい。  
TEL (025) 223-6381 FAX (025) 224-6103 E-mail: ken-ishikai@niigata.med.or.jp

区分	県医師会	日本医師会	日本医師会 A②会員(B) (一般勤務医)	日本医師会 A②会員(C) (医師法に基づく研修医)
B会員 (一般勤務医)	18,000円	28,000円	医賠償責任被保険者 82,000円	医賠償責任被保険者 39,000円
C会員	12,000円 (医療機関に勤務している者、及び医師法に基づく研修医で申請した者)	6,000円 (医師法に基づく研修医)	(うち、54,000円は日医医賠償責任被保険者部分)	(うち、33,000円は日医医賠償責任被保険者部分)

・医療機関に勤務している方、及び医師法に基づく研修医で申請した方は県医師会ではC会員となりますが、日本医師会では医師法に基づく研修医の方以外はB会員となります。  
・日本医師会の医師賠償責任保険に加入する方は、一般勤務医の方がA②会員(B)、医師法に基づく研修医の方がA②会員(C)となります。

# 編集後記

済生会新潟第二病院の鈴木美保先生の文章の最後に「卒業旅行等の疲れをとって」とありますが、「卒業旅行等で(国試勉強の)疲れをとって」の間違ひではと、編集委員間で議論となりました。

ともあれ四月からは疲れのないベストな状態で、颯爽と登院される皆さんを、心から歓迎いたします。くれぐれも体調管理、体力維持にはご注意ください。自身の体調が悪いと、人にやさしくできないからです。医師として最も大切なことだと思えます。(長谷川)